

HITOSHI NOMURA

PERCEPTIONS-CHANGES
IN TIME AND FIELD

野村仁

変化する相
時 | 場 | 身体



Cosmo-Arbor '06 1999-2006

野村仁 変化する相－時・場・身体

2009年 5月27日|水|－7月27日|月|

10:00－18:00(金曜日は20:00まで/入館は閉館の30分前まで) 毎週火曜日休館

国立新美術館 企画展示室 2E | 主催：国立新美術館 |

新

THE NATIONAL
ART CENTER, TOKYO
国立新美術館

開催趣旨

野村仁（のむら・ひとし）は、1945（昭和20）年、兵庫県に生まれた現代美術家です。

野村は、1960年代末から、いち早く写真を使った美術表現に取り組み、巨大なダンボール箱やドライアイスなどの固体物がゆっくりと形を変え、その様相を変化させていくさまを写真で記録し、「重力」や「時間」を眼に見えるかたちで示す作品で注目を集めました。

野村は、そうした物の変化を観察するなかで、「物が今ここに在るとはいかなることか」や、「物や時間によって成り立っているこの世界とは何なのか」に関心を持ち、やがて、その眼差しの対象を、地上の現象から、空や宇宙、DNAへと広げ、深めていきました。

太陽や月の運行の軌跡が美しい形を創り出すことを発見し、いま地球に届いている銀河の光が実は化石になった植物が生きていた時代に生まれたものであることの不思議さなどに魅了された野村は、それを写真だけでなく、映像や音、さまざまな媒体を使って表現してきました。その意味で、野村はマルチメディア・アーティストの先駆けでもあります。今回の展覧会は、そうした野村仁の40年近くにおよぶ活動を振り返る、東京では初めての大規模な回顧展です。

出品内容

写真、立体、平面、インスタレーション、映像、その他（本・譜面・CDなど）計127点（予定）

見どころ

私たちの日常的なものの見かたや捉え方を覆し、新しい世界観を提起する、それが野村仁の作品の大きな特徴です。

I 万物は流転する—変化する相への眼差し^{そう}

「物が在る」と聞くと、私たちはある物体が姿や形を変えることなく一ヶ所に静止している状態をイメージしがちです。しかし、本当にそうでしょうか。野村仁は、ドライアイスがゆっくりと昇華し、様相を変化させながらついに消えていく様子を写真で記録していきます。「物が在る」状態とは決して不変ではありません。そして自分の身体の外側の世界が、「物が在る」ことによって成り立っていると考えれば、世界は時間と相の連続と重なりによって出来上がっているともいえそうです。野村仁の作品は、私たちが当たり前だと思っている「自分が見て感じるものが『世界』である」という考え方に風穴を開けます。

II 自然に寄り添い、宇宙のリズムに従う

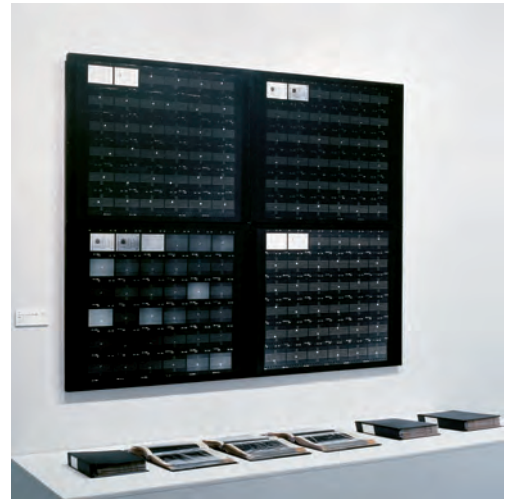
野村仁は、太陽や月を観測するうち、その運行の軌跡が美しい形を創り出すことを知ります。しかもそれは、生物の細胞の根源を成すDNAの形とも似ています。また、月の運行、空を群れ飛ぶ鳥たちの位置を音符に置き換えると、何とそこからはメロディが生まれました。これらはどういうことでしょうか。野村仁の作品は、私たちが地球の摂理だけに従って生きているのではなく、万物を統合する大きな力のもとで生かされていることに気づかせてくれます。

III 未来へ—自然と科学技術との共生

ならば、その大きな力に直接触れ、交信することは出来ないか。野村仁の果てしない関心は、いくつかの大規模なプロジェクトに結実します。銀河や太陽からの電磁波を受信し、その波を音に変換する《COWARA》(1987年)や、太陽のエネルギーをソーラーカーで受けとめ、アメリカ大陸を横断する《HAAS Project》(1999年)は、アーティストの思考と科学技術とが結び合った新しい美術のあり方を示しています。



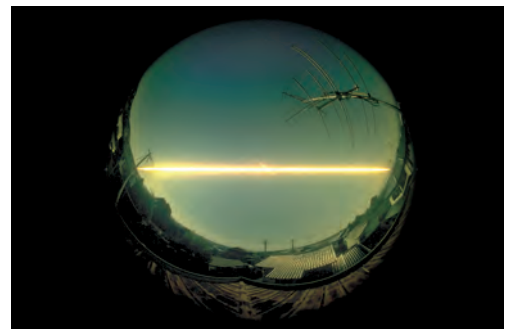
Tardiology 1968-1969



'moon' score 1975-1980 東京国立近代美術館蔵



正午のアナレンマ '90 1990 和歌山県立近代美術館蔵



曲った大気中の自転 1980 (参考作品)

IV 知覚の刷新—新しいコミュニケーションの提案

野村仁は、天空の世界にのみ、万物を統合する大きな力を見出したのではありません。地球上に生きる様々な生命体もまた、そこに内包される小宇宙とも言える摂理によって、野村の関心を強く引き付けています。その生命体とはたとえば植物であり、タコです。野村仁は、彼らが誰に教えられるでもなく備えている色彩の識別能力に着目します。人間も彼らのように色彩でコミュニケーションが出来ないだろうか。そのような考えから、大理石の上にさまざまな色彩を配列した野村仁の作品は、まるで石に刻まれた太古の絵文字のようにも見えます。ここにも、人間の知覚を離れて世界を見直せば、大きな力に触れることができるという一貫したテーマが見て取れます。

野村仁略歴

- 1945 (昭和20)年 兵庫県に生まれる
- 1969 (昭和44)年 京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)専攻科彫刻専攻修了
- 1970 (昭和45)年 第10回日本国際美術展「人間と物質」(東京都美術館)
- 1975 (昭和50)年 第9回パリ青年ビエンナーレ(国立近代美術館・パリ、パリ市立近代美術館)
- 1982 (昭和57)年 第5回インドトリエンナーレ(ニューデリー)
- 1987 (昭和62)年 近作展2 野村仁—Spin & Gravity(国立国際美術館・大阪)
- 1988 (昭和63)年 京都市立芸術大学助教授
- 1994 (平成6)年 作品集『Time-Space』(光琳社)
- 1996 (平成8)年 京都市立芸術大学教授
- 2000 (平成12)年 京都市立芸術大学大学院教授(主任指導教員)
野村仁—生命の起源：宇宙・太陽・DNA(水戸芸術館現代美術センター)
- 2001 (平成13)年 野村仁—移行/反照(豊田市美術館)
- 2006 (平成18)年 作品集『見る 野村仁：偶然と必然のフェノメナ』(赤々舎)

観覧料金

当日券：一般 1,000 円／大学生 500 円

前売券：一般 900 円／大学生 400 円

団体展：一般 800 円／大学生 400 円

※団体券は会場でのみ販売(団体料金は20名以上から適用)

※高校生、18歳未満の方、および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は無料

・前売券、および当日券は、チケットぴあ(Pコード：688-569)、
ローソンチケット(Lコード：34041)で取り扱っています。

・会期中に当館で開催中の企画展、および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館(六本木アート・トライアングル)で開催中の企画展チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます。

同時開催

「ルール美術館展 美の宮殿の子どもたち」

2009年 3月25日|水|—6月1日|月|

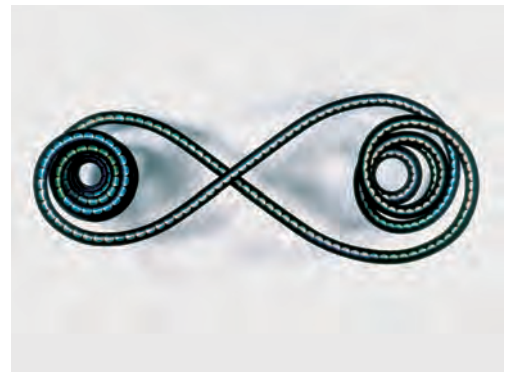
「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ」

2009年 6月24日|水|—9月7日|月|

広報に関するお問い合わせ

国立新美術館 広報担当：小島・滝沢・野々下

TEL: 03-6812-9925 FAX: 03-3405-2532 e-mail: pr@nact.jp



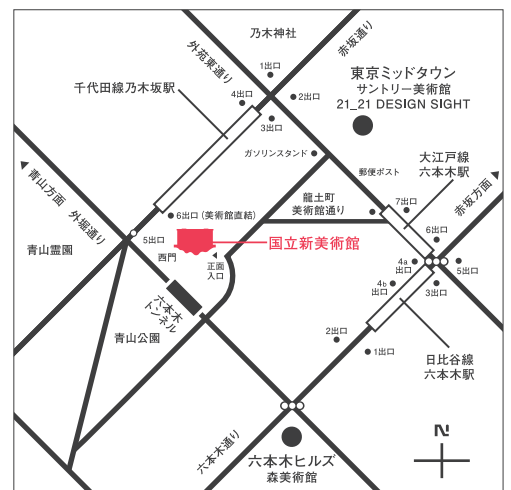
北緯35度の太陽 1982-1987 京都市美術館蔵



軟着陸する隕石 '96 1991-1996



サンストラクチャー '99 1998-1999



新 国立新美術館

THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

URL: <http://www.nact.jp>

アクセス

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 6 出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a 出口 徒歩 5 分

都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7 出口 徒歩 4 分